

二〇二三年度

第一回 入学試験問題

国語（五十分）（全十二ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



東京純心女子中学校

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

街は夕暮れの光の中で、淡い金色に輝いていた。その光を浴びながらコンビニエンスストアの前を過ぎまっすぐに歩く。

ふっといい匂いがした。焼きたてのパンの匂いだ。

「あら、千穂ちゃん、お久しぶり」

『ベーカリーYAMANO』のドアが開いて、白いエプロン姿の女の人が出てきた。丸い顔がにこにこ笑っている。優しい笑顔だ。同級生が山野真奈の母親だった。笑った目もとが真奈とよく似ている。小学生の時から真奈とは仲よしで、この店でよく焼きたてのパンやクッキーをこちそうになった。千穂は特に食パンが好きだった。窯から出されたばかりの食パンは、バターもジャムも必要ないぐらいおいしいのだ。しかし、

「他人さまのおうちで、たびたびごちそうになるなんて、aはしたないわよ。もう、やめなさい。欲しいなら買ってあげるから」

母の美千恵にそう言われてから、『ベーカリーYAMANO』に寄るのをやめた。

美千恵はときどき、食パンやケーキを買ってきてくれる。有名な店の高価なケーキをおやつに出してくれたりもする。①けれど、そんなにおいしいとは思えない。どんな有名店のケーキより、真奈たちとくすくす笑ったり、おしゃべりしたりしながら、口いっぱい頬張ったパンのほ

うがずつとおいしい。

もう一度、□の食パンにかじりつきたい。

そんなことを考えたせいだろうか、キュルキュルとおなが音がたてる。頬がほてった。

やだ、恥ずかしい。

しかし、山野のおばさんは気がつかなかったようだ。千穂の提げている布製のバッグをちらりと見やり、尋ねてきた。

「これから、塾？」

「はい」と答えた。バッグの中には塾で使う問題集とノートが入っている。

「千穂ちゃん、偉いわねえ。真面目に勉強して。②それに比べて、うちの真奈ったら、受験なんてまだまだ先のことだって涼しい顔してるのよ。塾にも通ってないし。ほんと、千穂ちゃんをちよつとでも見習って、しっかりしてほしいわ」

そんなこと、ありません。

千穂は胸の内で、かぶりを振った。

真奈は偉いと思います。しっかり、自分の将来を考えてます。あたしなんかより、ずっと……。

「千穂、これ、まだ誰にも言っていないんだけど……あたし、お父さんみたいになりたいなって思ってるんだ。パン職人」

今日のお昼、一緒にお弁当を食べていた時、真奈がぼそりとつぶやい

た。昼食の前、四時限めに、来年にひかえた受験に向けて志望校をどう決定していくか、どう絞しぼっていくか、担任の教師から説明を受けたばかりだった。

「……高校受験というのは、ただの試験じゃない。きみたちの将来につながる選せんたく択をするということなんだ。具体的な職業までは無理としても、自分は将来、何がしたいのか、あるいはどんな人間になりたいのか、そういうことをじっくり考えて進路を選せんたく択してもらいたい。③自分の意志が必要なんだ。自分の将来を自分自身で選せんたく択するという意志をもってもらいたい」

いつもはのんびりした口調の担任が、生徒一人一人の顔を見やりながら、きつぱりと言いきった。

意志をもってもらいたい。

その一言を千穂が心*1はんすうの中で反芻はんすうしていた時、「パン職人」という言葉が耳に届いたのだった。

「なんかさ、うちのお父さん、普通ふつうのおじさんんだけど、パンを作ってる時だけは、どうしてだかっこよく見えるんだよね。作ったパンもおいしいしさ。お客さん、すぐ嬉うれしそうな顔して買いに来てくれるんだよね。なんか、そういうの見てるといいかなくて、すごくいいなって。もちろん、大変なものもわかってる。朝なんてめちゃくちゃ早いしさ、うちみたいに全部手作りだと、ほんと忙いそがしいもの。嫌いやだなあって思ってた時もあったんだけど……実はね、千穂」

「うん」

「この前、お父さんと一緒にパン、作ってみたの」

「へえ、真奈が」

「うん。もちろん、売り物じゃなくて自分のおやつ用なんだけど、すごく楽しくて……あたし、パン作るの好きなんだって、本気で思った。だからね、高校卒業したらパンの専門学校に行きたいなって……思ってた」

少し照れているのか、頬を赤くして真奈がしゃべる。そこには確かな自分の意志があった。

真奈って、すごい。

心底から感心してしまう。すごいよ、真奈。

真奈が顔を覗のぞき込んでくる。

「千穂は画家志望だよ。だったら、やっぱり芸術系の高校に行くの？」

「え……あ、それはわかんない」

「だって、千穂、昔から言ってたじゃない。絵描かきさんになりたいって。

あれ、本気だったでしょ？」

「④……まあ。でも、それは……」

夢だから。口の中で呟つぶき、目を伏ふせる。うつむいて、そっと唇くちびるを噛かんだ。

山野のおばさんに頭を下げて、また、歩きだす。さっきより少し足早あそびになっっていた。

花屋、喫茶店、スーパーマーケット、ファストフードの店、写真館：
…見慣れた街の風景が千穂の傍らを過ぎていく。

足が止まった。

香りがした。とてもいい香りだ。焼きたてのパンとはまた違った芳
しい匂い。

立ち止まったまま視線を辺りに巡らせた。写真館と小さなレストラン
の間に細い道がのびている。アスファルトで固められていない土の道は
緩やかな傾斜の上り坂になっていた。この坂の上には小さな公園がある。
そして、そこには……。

大きな樹。

枝を四方に伸ばし、緑の葉を茂らせた大きな樹がある。小学校の三、
四年生まで真奈たちとよく公園に遊びに行った。みんな、大樹がお気に
入りで、競って登ったものだ。

あれは、今と同じ夏の初めだった。幹のまん中あたりまで登っていた
千穂は足を踏み外し、枝から落ちたことがある。かなりの高さだったけ
れど奇跡的に無傷ですんだ。しかし、その後、大樹の周りには高い柵が
作られ簡単に近づくことができなくなった。木登りができなくなると、
公園はにわかには退屈なつまらない場所となり、しだいに足が遠のいてし
まった。中学生になってからは公園のことも、大樹のことも思い出すこ
となどほとんどなかった。

それなのに、今、よみがえる。

大きな樹。卵形の葉は、風が吹くと□と優しい音を奏でる。息
を吸い込むと、緑の香りが胸いっぱい満ちてくる。

千穂は足の向きを変え、細い道を上る。どうしても、あの樹が見たく
なったのだ。塾の時間が迫っていたけれど、我慢できなかった。ふいに
⑤鼻腔をくすぐった緑の香りが自分を誘っているように感じる。大樹
が呼んでいるような気がする。

だけど、まだ、あるだろうか。とづくに切られちゃったかもしれない。
切られてしまって、何もないかもしれない。

心が揺れる。□する。

「あつ！」

叫んでいた。大樹はあった。四方に枝を伸ばし、緑の葉を茂らせて立
っていた。昔と同じだった。何も変っていない。周りに設けられた囲い
はぼろぼろになって、地面に倒れている。だけど、大樹はそのままだ。
千穂はカバンを放り出し、スニーカーを脱ぐと、太い幹に手をかけた。
あちこちに小さな洞やコブがある。登るのは簡単だった。

まん中あたり、千穂の腕ぐらいの太さの枝がゆつと伸びている。足
を滑らせた枝だろうか。よくわからない。枝に腰かけると、眼下に街が
見渡せた。金色の風景だ。光で織った薄い布を街全部にふわりとかぶせ
たような金色の風景。そして、緑の香り。

そうだ、そうだ、こんな風景を眺めるたびに、胸がドキドキした。こ
の香りを嗅ぐたびに幸せな気持ちになった。そして思ったのだ。

あたし、絵を描く人になりたい。

理屈りくつじゃなかった。描きたいという気持ちこころが突き上げてきて、千穂の胸を強く叩たたいたのだ。そして今も思った。

描きたいなあ。

今、見ている美しい風景をキャンパス*3に写し取りたい。

画家なんて大仰おおきようなものでなくていい。絵を描くことに関わる仕事しごとがなかった。芸術科のある高校に行きたい。けれど母の美千恵には言い出せなかった。母からは、開業医の父の跡を継つぐために、医系コースのある進学校を受験するように言われていた。祖父も曾祖父*4も医者だったから、一人娘ひとりめの千穂が医者を目ざすのは当然だと考えているのだ。芸術科なんてとんでもない話だろう。

絵描きになりたい？ 千穂、あなた、何を考えてるの。絵を描くのなら趣味程度しゅみにしときなさい。夢みたいなこと言わないの。

そう、b一笑いっしょうに付されるにちがいない。大きく、深く、ため息をつく。

お母さんはあたしの気持ちなんかわからない。わかるうとしない。なんでもかんでも押しつけて……あたし、ロボットじゃないのに。

ざわざわと葉が揺れた。

そうかな。

かすかな声が聞こえた。聞こえたような気がした。耳を澄すます。

そうかな、そうかな、本当にそうかな。

そうよ。お母さんは、あたしのことなんかこれっぽちも考えてくれな

くて、命令ばかりするの。

そうかな、そうかな、よく思い出してごらん。

緑の香りが強くなる。頭の中に記憶きおくがきらめく。

千穂が枝から落ちたと聞いて美千恵は、血相をかえてとんできた。そして、泣きながら千穂を抱だきしめたのだ。

「千穂、千穂、無事だったのね。よかった、よかった。生きていてよかった」

美千恵は **マ**と涙なみだをこぼし、「よかったよかった」と何度も繰り返した。

「だいじな、だいじな私の千穂」そうも言った。母の胸に抱かれ、その温かさを感じながら、千穂も「ごめんなさい」を繰り返した。ごめんなさい、お母さん。ありがとう、お母さん。

思い出したかい？

うん、思い出した。

そうだった。この樹の下で、あたしはお母さんに抱きしめられたんだ。しっかりと抱きしめられた。

緑の香りを吸い込む。

これから家に帰り、ちゃんと話そう。あたしはどう生きたいのか、お母さんに伝えよう。ちゃんと伝えられる自信がなくて、ぶつかるのが怖こわくて、お母さんのせいにして逃にげていた。そんなこと、もうやめよう。お母さんに、あたしの夢を聞いてもらうんだ。あたしの意志であたしの

未来を決めるんだ。

大樹の幹をそつとなでる。

ありがとう。思い出させてくれてありがとう。

樹はもう何も言わなかった。

風が吹き、緑の香りがひとときわ、濃こくなった。千穂はもう一度、深くその香りを吸い込んでみた。

(あさのあつこ「みどり色の記憶」より)

*1 反芻……何度もくり返し考えること。

*2 鼻腔……鼻のあなから咽のどまでのこと。

*3 カンバス……油絵を描く画布のこと。

*4 曾祖父……ひいおじいさんのこと。

問一 〓線 a 「はしたない」・b 「一笑に付される」の意味として適当なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「はしたない」

ア つつしみが無い

イ とんでもない

ウ なさけない

エ だらしない

b 「一笑に付される」

ア 正気だとは思われない

イ 笑いものにされる

ウ 取り合ってもらえない

エ 敵しくしかられる

問二

一	二	三	四
---	---	---	---

に入る適当な言葉を、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、

一

は二箇所かしょあります。

ア ほかほか

イ ぼろぼろ

ウ サワサワ

エ ドキドキ

問三 〓線①「けれど、そんなにおいしいとは思えない」とありますが、なぜですか。適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 『ベーカリーYAMANO』の食パンは、子どもである自分の口に合うとはいえないから。

イ 『ベーカリーYAMANO』の食パンは、決して高級品であるといえるような品質ではないから。

ウ 有名な店の高価なケーキは、『ベーカリーYAMANO』で食べるようなように、友だちと一緒に食べるわけではないから。

エ 有名な店の高価なケーキは、『ベーカリーYAMANO』の食パンに比べると小さくて、満足感を得られないから。

問四 — 線②「それに比べて」の「それ」はどのようなことを指していますか。本文中の言葉を使って解答欄らんに合うように、二十字程度で答えなさい。

【二十字程度】こと。

問五 — 線③「自分の意志」とありますが、真奈の「意志」とは具体的にどのようなことですか。解答欄に合うように、三十五字以内で答えなさい。

【三十五字以内】ということ。

問六 — 線④「……まあ。でも、それは……」とありますが、このときの千穂の様子として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千穂は、絵描きになりたいと本気で思っていたわけではないため、どのように説明したらよいか迷っている。

イ 千穂は、絵描きになることは実現不可能な話だと考えているため、本気だったとは言えずに言葉をにがしている。

ウ 千穂が絵描きになりたいという話は、二人だけの秘密にしておきたいため、あいまいにこたえている。

エ 千穂が絵描きになりたいのは、子どもころからの夢であるため、今はそっとしておいて欲しいと思っている。

問七 — 線⑤「鼻腔をくすぐった緑の香りが自分を誘っている」とありますが、ここで使われている表現技法を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法ぎじん イ 倒置法とうち ウ 反復法 エ 対句法

問八 次の会話は本文について、二人の中学生が話している場面です。これを読んで、後の各問いに答えなさい。

A…私は、千穂が『ペーカリーYAMANO』を出てからの場面が印象的だったな。

B…千穂が、真奈との会話を思い出している場面の次の段落からだね。

A…そう、「1 八字」で始まる段落から。

B…足早に街を歩く様子が「2 二十字」という比喩で表わされているところから、「あたしの意志であたしの未来を決めるんだ」って決意するまでの千穂の心の動きが、「緑の香り」という表現を使って描かれているところがいいね。

A…いろいろな「香りや匂い」がカギになっているんだよね。物語は「焼きたてのパンの匂い」から始まって、場面が変わったところで、「焼きたてのパンとはまた違った芳しい匂い」がする。これについて【3 二字】の匂いだと思うんだ。その【3】に呼ばれるようにして公園に向かうんだよね。

B…公園で千穂は、「金色の風景」と「緑の香り」に触ふれて、絵を「描き

たい」という気持ちになった小学生の頃を思い出して、今も同じ気持ちだと改めて感じているね。でも、お母さんは【 4 十三字 】のは当然だ」って考えているから、千穂の気持ちなんてわろうとしてくれないんだよ。

A ……うーん、本当に千穂のお母さんは、千穂の気持ちを「わろうとしない」のかな。【 5 十字 】という表現の後から大樹との会話が始まるでしょ。でも、私はこれは自分との会話の始まりじゃないかって思ってるんだ。それと、千穂の心が揺れているのも表わしているんだと思う。

B …その会話の途中で出てくる「緑の香り」のところで、千穂の心が変化しているんだよね。他にも「絵を描く人になりたい」ことや、お母さんの愛情に気づかせてくれるきっかけになっている。

A …木から落ちたときにお母さん、心配してとんできて、無事がわかると【 6 十三字 】んだよね。

B …うん。そして「緑の香りを吸い込む」。ここで千穂が決意したことがわかるね。

A …そうだね。「あたしの意志であたしの未来を決めるんだ」という決意だね。「お母さんのせいにして逃げていた。そんなこともうやめよう」って。

B …「緑の香りがひととき濃くなった。千穂はもう一度、深くその香りを吸い込んでみた」っていう表現で千穂が確かに前を向いて進み始

めたことが感じ取れるね。

(1) 【 1 〽 6 】に入る適当な言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出しなさい。同じ番号には同じ言葉が入ります。

(2) 線「お母さんのせいにして逃げていた」とありますが、どのようなことですか。適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千穂が「お母さん」に反発してきたのは、自分の意志をうまく伝えられなかったからだと気づいたということ。

イ 「お母さん」の期待に応えるために勉強をしているから、千穂は勉強が嫌いになったと思いついていたということ。

ウ 「お母さん」が命令ばかりすることが、千穂が自信を持っていない原因だと言いつけられたということ。

エ 千穂は自分の気持ちをわかってもらおう努力もしないで、どうせ「お母さん」はわかってくれないと決めつけていたということ。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ひとり暮らしの人は別にして、たぶんみなさんの家にテレビはあるんじゃないかな。今はテレビが当たり前の生活になっているけれど、放送が始まったのはもうずっと前、まだ戦後と呼ばれていた時代のことだ。

それまで国民の情報源はラジオだった。人々はラジオを通して真珠湾攻撃を知り、戦争に負けたことを知った。

□ 戦後もラジオ放送は続いた。戦争の後遺症で日々の暮らしもままならない中、ラジオは情報源であると同時に、生活に潤いを与える娯楽でもあったんだ。ラジオは映像がないため、音がすべてだ。□ 人々は聞き漏らすまいと、自然とAシンクイを集中することになる。家族が

みんなでラジオのそばに集まる光景が、当時は日本中で見られたんだ。

□ 一九五三年に音声だけでなく、映像も届けられるテレビ放送がスタート。ラジオは次第にお茶の間の主役の座をテレビに譲ることになる。

始まったばかりの文化にBユタかな才能が流れ込み、意欲的な実験が繰り返されるのは歴史の常だ。ドキュメンタリーの分野では作り手のメッセージをぶつける熱いものや、実験的、前衛的な手法をとりいれた作品がたくさん生まれたし、ドラマやバラエティーもタブーをあえて破ろうとしているかのような自由さがあつた。何より作り手たちのなかに、自分たちは時代をつくっているという使命感が強烈にあつたのだと思

う。

ところが子どもたちは少々羽目を外してもa大目に見てもらえるけれど、大人になったら社会の目がうるさくなるように、テレビはその影響力を増すにつれ、お行儀よく振る舞うことを求められるようになった。

(中略)

かくして①テレビは文化の担い手としての意識をだんだんと失っていく。そしてそれと並行するかのようには、ニュースとスポーツ、ドラマとバラエティーというメニューをそろえた大衆娯楽をCテイキョウする一大産業となり、テレビ局同士で激しい視聴率競争を繰り広げることになる。さらにはインターネットといった新しいメディアが誕生すると、どうしたらテレビに客を引きつけられるのか、どうしたら視聴者を逃さないか、もつと言えばどうしたらチャンネルを変えられないかという意識を、作り手はより強く持つようになっていく。

そうすると、何が起きるのか。

一部の人間だけが興味を持つものではなく、できるだけ多くの視聴者が見たいものを放送しようとするようになるだろう。そのほうがいいに決まっている、一部の人が興味を持つものよりも、多くの人が見たいと思う普遍性をもつ番組のほうがいい。そう考える人もいると思う。

でも、ものごとにはいつも別の顔がある。この場合でいえば、多くの視聴者が見たいと思うものを放送しようとするこの持つ、もうひとつ

のDソクメンだ。

多くの視聴者が見たいものとはなんだろう。人間はひとりひとり違う。生まれ育った環境も、何に興味を持っていても、どれだけの理解力を持っているかという知的水準も、誰一人同じではない。

②そんな状況で出来るだけ多くの人に見てもらうには、どうすればいいだろう。

一番簡単なのは、③人間が持つ共通の要素を盛り込むことだ。人間はひとりひとり違うけれど、誰もが持っている共通項もある。たとえば好き嫌いはあっても、食事をしない人はない。そう考えると、グルメ番組がこれだけたくさんあるのもうなずけるだろう。

恋愛はどうだろう。こちらも好みは多様だけれど、多くの人が自分のこととして興味を抱けるテーマに違いない。かくして恋愛ドラマから、カップルを誕生させるバラエティーまで、恋愛を盛りこんだ番組がない日はないほどだ。

(中略)

そう考えてくると、多くの人の興味を引き付けられるのは、人間の「本能」や「感情」に訴える要素が含まれる番組と言えるのではないだろうか。ニュース番組でも強烈なキャラクターを持つ容疑者がいれば、それほど大きな事件でなくても、多くの時間をさいて映像を見せることになる。あるいはスキャンダラスな愛憎劇も、ワイドショーのかっこうのネタだ。

面倒な説明なしに、わかってもらえるもの。

これこそテレビの大好物なのだ。

テレビのチャンネルを変えるとき、みんなはリモコンを使うよね。昔、まだリモコンがなかったときは、わざわざテレビのそばまで行って、チャンネルを変えていた。とすると面倒だから、あまりチャンネルを変えようとしな。ところが、リモコンだと指先ひとつだから、退屈ならすぐにチャンネルを変えるようになる。しかも今やテレビの視聴率は一分おきに数字が出て、グラフとして表すようになってから、どうしたら一瞬たりとも興味を逃さない作りをするかを、常にテレビマンは考えなければならぬと言ってもいい。一種の強迫観念のように。

そうすると④複雑なもの、わかりにくいものが排除されていくのは、自然な流れだろう。

もちろん例外はある。複雑な深いテーマに果敢に挑む意欲的な番組もある。しかし限られた予算と時間、限られた人手のなかで視聴率という結果を出すためには、わかりにくいものには背を向けがちだ。そしてもし取り上げるなら、途中の面倒なプロセスはやめて、結論だけ示していく。これはこうだからこう、くらいなら視聴者はついてきてくれるかもしれない。池上彰さんがこれだけb引つ張りだこなのは、複雑に見えるものを「要するにこれは、こういうことだ」と、平易な言葉で説明する類いまれな能力の持ち主だからだ。

最近、ニュース番組を見てもバラエティー番組を見ても、画面に文字

がたくさん出てくる。テレビの用語で文字スーパーと言うんだけど、耳で聞けばわかるものも重ねて文字スーパーを出す。それも色とりどりの大きな文字で。

テレビだけに集中している人は少ない、どうせ何かしながら見ているのだから、音と文字の両方があったほうがわかりやすいと思う人もいるだろう。でも個人的な意見を言わせてもらおうと、⑤今の状況は過剰だと思ふ。

わかりにくいものは避けて、シンプルなものを取り上げる。しかもさらに親切にも音だけでなく、大きな文字も出していく。視聴者ができるだけ考えなくてもすむように、おせっかいなまでに親切心を發揮しているように見える。

そしてそれに慣れてくると、視聴者も忍耐力を失っていく。Xには耳をかさず、Yだけを求めるようになってくる。ぼく自身も例外ではない。説明がわかりにくかったりするとテレビ画面に向かってぶつぶつと文句を言っているし、要するに何なの？ と結論を性急に求めてしまう。テレビをつけても、しょっちゅうスマホをながめている。面白くないと、すぐにリモコンでザッピングを始める。⑥やれやれだ。

複雑なものを聞く忍耐力を失わせる犯人は、テレビだけではない。ネットではさらにわかりやすいセンサーショナルな見出し競争が繰り広げられているし、フェイクニュースに「いいね」を押している人の多くは、本文を読んでいなかったというEチヨウサもある。電車で本を読ん

でいる人を見かけるのは、まれだ。多くの人は、スマホの画面を通して一瞬で流れ去るタイムラインをながめている。新しい刺激に対して反射的に反応する能力はついていないのかもしれない。しかしその一方で、ぼくたちは複雑なものごとを聞く忍耐力と能力を失いつつあるのではないだろうか。

(松原耕二『本質をつかむ聞く力 ニュースの現場から』より)

なお、本文には省略等があります。

- *1 前衛的……時代に先駆けているさま。
- *2 タブー……すべきではないとされていること。
- *3 スキャンダラス……名声を汚す不祥事を引き起こしそうなさま。
- *4 ザッピング……テレビのチャンネルを頻繁に変えること。
- *5 センサーショナル……興味や関心をあおるさま。

問一 ・・に入る言葉として適当なものを、次のア

〜エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば イ だから ウ ところが エ もちろん

問二 ――線 a 「大目に見て」・b 「引っ張りだこ」の使い方として正し

い文を、次のア〜エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「大目に見る」

ア 試験で答えに単位をつけ忘れたが、先生は大目に見てくれた。

イ とてもお腹が空いていたので、夕飯は大目に見てもらった。

ウ 何事も大目に見ることで、本質を理解することができるものだ。

エ 信じられない出来事が起きて、思わず友人と大目に見てしまった。

b 「引っ張りだこ」

ア 友人たちとふざけて引っ張りだこをしたら、怪我^{けが}をしてしまった。

イ 調子に乗って騒^{さわ}いでいると、引っ張りだこになるなと怒^{おこ}られた。

ウ 勉強もスポーツもできる彼は、友人たちから引っ張りだこだ。

エ 同じ話を何度も聞かされて、耳に引っ張りだこができてしまった。

問三 ――線① 「テレビは文化の〜失っていく」について、次の各問に

に答えなさい。

(1) 「文化の担い手としての意識」とほぼ同じ内容を示した言葉を、本文

中より十五字で抜き出しなさい。

(2) 「文化の担い手としての意識」を失ったことで、その結果「意識」はどのような考えへと変わったのですか。解答欄^{とく}に合うように、本文中より二十三字で探し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

【二十三字】という考え。

問四 ――線② 「そんな状況」とは、どのような状況ですか。三十字以

内で説明しなさい。

問五 ――線③ 「人間が持つ共通の要素」とあるが、これはどのような

要素のことですか。本文中から二十字以内で探し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問六 ――線④ 「複雑なもの〜自然な流れだろう」とありますが、筆者

がこのように述べるのはなぜですか。これを説明した次の文の空欄に入る言葉を本文中から探し、それぞれ指定の字数で抜き出しなさい。

昔と比べて現代では、退屈な番組は【 1 十二字 】ことができるため、テレビマンは【 2 十三字 】作りの番組を放送するために、【 3 十七字 】ものを考えるようになるから。

問七 —— 線⑤「今の状況は過剰だ」について、次の各問いに答えなさい。

(1)「今の状況」とは具体的にどのような状況ですか。解答欄に合うように二十五字以内で答えなさい。

【二十五字以内】状況。

(2)「今の状況」について筆者はどのように考えていますか。解答欄に合うように三十五字以内で答えなさい。

【三十五字以内】と考えている。

問八

X

・

Y

に入る言葉を、本文中からそれぞれ五字以内で抜き出しなさい。

問九 —— 線⑥「やれやれだ」とありますが、この表現から読み取れる筆者の様子として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ねぎらっている イ 困惑こんわくしている
ウ 安堵あんどしている エ あきれている

問十 次のア～エは、本文を読んだ中学生の感想です。本文の内容を正しくとらえているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 戦後、実験的、前衛的な手法を取り入れた番組は、多く文化の担

い手としての役割があつたけれど、それがなくなつてしまつた現代ではどの番組も同じような内容が多いので、もつと複雑なテーマを扱あつかうべきだと思ひました。

イ テレビ番組やインターネットはわかりやすい言葉が並んでいるから、多くの情報を得た気になつてしまふけれど、それによつて複雑なものを聞く忍耐力が失われる可能性があると知り、気をつける必要があると感じました。

ウ 現代のテレビ番組は結論だけを重視しているため、新しい情報もどんどん得ることができるとは思ふけれど、その情報の多くはフェイクニュースであることが多いと分かつたので、これからはテレビをあまり見ないようにしたいです。

エ テレビマンたちは視聴率を上げるため、画面に文字をたくさん出すなどして工夫をしているけれど、説明が分かりにくければ視聴率を下げることにつながるので、結局は番組の内容が面白いかどうか重要なのだと分かりました。

問十一 ……線A「シンケイ」・B「ユタ(か)」・C「テイキョウ」・D「ソクメン」・E「チョウサ」のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。